

岩下副委員長（民主県政会）

平成 31 年 2 月 28 日

教育長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）教育長就任後初となる新年度予算編成について

予算編成について、どのような点で苦労があったのか、また、県民にアピールしたい一番のセールスポイントはどんな点なのか、併せて教育長に伺う。

（答）

平成 31 年度当初予算編成において留意した点といたしましては、これまで本県が進めてきた教育施策を継続しつつ、新たな視点として、校長として現場で経験してきたことや、学校訪問を通じて感じた課題をどのように予算に反映させていくかということでございます。

私は、教育長に就任して以来、現場主義を掲げ、学校現場を訪問し、教育環境や児童生徒の状況について把握してまいりました。

学校では、「学びの変革」アクション・プランに基づく課題発見・解決学習の推進や、生徒指導上の諸課題に対する取組を、教職員が一丸となって進めていることを実感したところでございます。

こうした取組を更に充実させるため、

- ・ 学校図書館の活用による課題発見・解決学習の推進
- ・ 個別の状況に対応した「主体的な学び」の創造に関する調査研究
- ・ 不登校等児童生徒への対応など、学びのセーフティネット構築事業の充実
- ・ 地域と共にある学校づくりを目指した、県立学校へのコミュニティ・スクールの導入

について、必要な予算を計上させていただいているところでございます。

また、昨年 7 月の豪雨災害からの復旧・復興に係る取組についても、必要な予算を計上しております。

この中で、一番のポイントといたしましては、「学びのセーフティネット構築事業」において、「学級集団アセスメント」の導入や「校内適応指導教室」の整備など、不登校等児童生徒に対する相談支援体制などの強化を図ることとしたところでございます。

私といたしましては、こうした施策の実施を通じて、子供たちが将来の夢を描き、自立した社会人として、国内はもとより、世界で活躍できるような

「人づくり」を進め、子供たちにとって、「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現」を目指してまいりたいと考えております。